

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

<本年度の学力向上基本方針>

校訓 「夢の実現」 学校教育目標 「向学 自立 協働」
 『わかった』『できた』という喜びを味わえ、確かな学力を育成する授業の実践
 「夢や希望を持ち、心豊かに生きる生徒の育成」

4月

学力向上目標①

さいたま市学習状況調査の国語及び数学の平均正答率を、令和元年度の値より 5pt 向上させた値にする。

<目標達成に向けた学力向上策>

策1

全学年において、生徒が考えを表出する場面で「根拠を明確にすること」「思考過程を可視化して考えること」の指導を実践する。

開始期日

5月中

具体的な手立て

- ・令和元年度さいたま市学習状況調査を分析し、実態を把握する。(5月中)
- ・研修において、各教科等の特性に応じた「根拠の示し方」「思考過程をイメージさせるための方法」について検討する。(5、6月中)
- ・「インプットした情報を自分なりに整理した上で考えや説明などの形でアウトプットする」ことを学習活動に取り入れる。(2学期)

8月

本年度の振り返り

さいたま市学習状況調査の質問事項において、「自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思いますか」に対して、学校全体で 76.6%の生徒が肯定的に回答した。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」に対して、82.9%の生徒が肯定的に回答した。

達成度



2月

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

- 今年度の成果：生徒が自分の考えを表す際に根拠を明確にする意識が向上した
 課題：意識はできているが、「難しい」と感じている生徒が多い
- ・生徒が自らの考えや、考えを支える根拠等について自信を持って示すことができるための指導の工夫
 - ・授業や生活の中で考えを説明したり、文章に書いたりする活動の充実
 - ・根拠の確かさ等について客観的に確かめる力を育てるための指導の工夫

4月 学力向上目標②

「よい授業」アンケートにおける、因子④の値について全教員が目標値を上回る。また、因子③のうち「先生がパソコンやテレビなどを活用して教えてくれる」の項目について全教員が目標値を上回る。

<目標達成に向けた学力向上策>

策1

・各教科等の資質・能力を身に付けるために効果的な、ICT機器の活用場面を工夫した授業を実践する。

開始期日

5月

具体的な手立て

- ・ICT機器の活用についての先進事例を用いた研修を行う（5月）
- ・ICT機器を効果的に活用した授業について各教科で構想し、校内研修において全体で検討する（5～7月中）

8月

2月

本年度の振り返り

全ての教職員が、学習活動において生徒が情報端末を活用する場を設定した授業実践を行い、活用方法の検討を行うことができた。「よい授業」アンケートにおいては、因子④の達成率は73%、因子③の達成率は80%であった。

達成度

/

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

今年度の成果：一人1台端末の整備に伴う、実際の学習活動における効果や課題について実践を通して共有することができた。

課題：ICT機器の活用が、必ずしも生徒の活動の活性化につながっていない

- ・資質・能力の確実な育成に資する効果的なICT機器の活用
- ・生徒自身が能動的にICT機器の活用場面を選択できる能力の育成
- ・コロナ禍において生徒の協働的な活動を保障するためのICT機器の効果的な活用方法の研究